

海の声

地域の皆様と保護者の皆様と
子どもたちとわたしたち
御所浦小でおこすステキな奇跡

~ VOICE OF OCEAN ~

御所浦小学校
学校通信
令和3年11月25日
文責・木村純一

40

御所浦小ホームページのトップページはコチラ→



研究発表会を開催しました!

11月18日(木)は研究発表会でした。天草市教育委員会の令和3年度小中連携教育研究指定を受け、ここまで中学校と実践を重ねてきたことの発表でした。天草市は児童生徒数減少により、およそかつての市町に1小1中となっています。隣接であるならば、連携も円滑なのですが、多くの小中学校が「隣接ではない」状況で、そこもふまえて、御所浦小中学校が研究を進めました。

私たちは、この研究指定を受けて、エネルギーを一気に注いで、新しいことをどんどん実践するのではなく、研究発表後も継続できる実践を重ねていくことで、研究を進めることにしました。

簡単に実践を紹介すると、「小中合同運動会及びそれに向けて児童会生徒会の大会テーマを決めるリモート会議」「小中職員が授業に参加する乗り入れ授業」「各学校の研究授業や授業研究会への参加」「図書委員会の読書郵便や本の帯コンテスト投票参加」などです。これにより、私たち職員の関係がよりよくなり、義務教育9年間を見据えた教育が日頃の実践と結びつくようになりました。

当日は、海上タクシーでの送迎から始まり、体育館での全体会では研究主任甲斐先生(&中学校平山先生)による研究概要説明、3つの公開授業、そして授業後の研究会を実施しました。公開授業では、関係者含め40名ほどの参観の中、T.T

中学1年生は、数学担当の安武先生と、小学校の子ども時代を知っている有馬先生とのチーム・ティーチングで授業を展開しました。歩く速度の違う2人が、公園の周回コースを同時刻同方向に出発して、何分後に1周差をつけて追いつくかを探ります。

有馬先生は導入を担当したり、個別指導をしたりとがんばりました。また授業には、坂瀬先生の姿もありました。縁あって、1年間の成長を見てもらう機会となりました。

6年生は、担任の甲斐先生と、中学校の国語担当の福田先生とのチーム・ティーチングで授業を展開しました。

前単元「イーハトーブ」でも福田先生が授業に入り「作品は作者で読む」という名言で6年生が進級して挑む中学校の国語学習の一端を見せてくれていたので、この授業も極めて深掘りの2人の息バッチリの授業でした!



5年生は、担任の田島先生と、中学校の英語担当の西村先生とのチーム・ティーチングで授業を展開しました。

自分のオススメの国を英語で西村先生にアピールして評価してもらうという授業でした。ろうか、いや他教室まで5年生の英語でのスピーチが響き、参観者は顔をほころばせていました。



(チーム・ティーチング)で、6年生国語(with中学校福田先生)、5年生外国語(with中学校西村先生)中学1年生数学(with本校有馬先生)を実施しました。もちろん当日だけでなくこれまで連携を深めていますので、息の合った授業、9カ年を見据えた先生たちの授業が、参観者に示唆を与えたと思います。

また、この研究発表会では、御所浦小中の子どもの私たちのがんばりをたくさん見てもらうチャンスでもありました。実際に一生懸命がんなる姿に感銘を受けた参観者も多くありました。とにかく掘り下げて掘り下げてがんばる6年生、屈託なく英語を発声し体で表現する5年生、すばらしかったです。

また児童玄関前で参観者を案内しているときに、公開授業以外の子どもたちの下校と重なりました。御所っ子はそんなときに「あっ、教頭先生誕生日おめでとうございます!」と言える子どもたちです。教頭先生が子どもたちから「誕生日おめでとう」と言ってもらえる学校って本当にステキです。

本当にたくさんのおみなさまのおかげさまで、研究発表会が盛会のうちに終了しました!先生たちもそれぞれの持ち場で労を惜しまず働き、発表会を支えてくれました。そして何よりなのは、子どもたちの育ちの姿をたくさんの人に見せることができたことです。これこそが、御所浦小の誇りです!



言葉の心
いい言葉は心にひびく

マイブームの作品から出題です。ストーリーの中でセリフは役名となっている文豪のもともとの作者の作品中の表現である場合が多く、ハツとする深い表現がこの作品にはよくあります。

私はこの作品の流れで今、辻村深月さんを読んでいます。(答へは右端です)

(マクシマ・トルコフスカヤ) 確管中(ニギル)